

J P D U 秋 t C A 陣 Reason for decision

Vote を Government に出す。

ラウンドの争点としては主に

①正当性

②原子力発電所の事故、またそれにより発生する被害について

③電力供給の低下に伴う経済界へのダメージについて

の3つとなる。

①正当性 (PM 提示の 1st point)

これについては勝敗には加味するレベルには至っていないものの、話自体の妥当性に関しては理解ができるものだった。その反面、他者被害の原則を国家間の問題において定義し、説明が不足している点から評価はできるが、加点要素にはなりえないと判断した。加えて本当に他者被害の原則において必要な実害があるのか、といった点も、説明が不十分である。

②原子力事故、被害について

「可能性が0%ではない」・「実際何回も事故は起きている」と Government が反論したことに対して、「システムにより監視、コントロールされているため安全である」と Opposition が再反論した。しかしこの時点で本当に絶対ありえないのか、絶対にまた起きうるのか、といった決定的な要素が見られなかったため、「起きるのかもしれないが、可能性は限りなく低い」という結論に至った。

この点に置いて、もう一つの衝突点である事故から人類は学び、もう事故が起きないように、システムを工夫するのか、それともまた事故を繰り返すのかといった点もある。しかしこの点に置いても決定的な反論は見られなかったため、具体的な事例があるために「可能性は低い、存在する」との結論に至った。

そしてこの問題の深刻性については Government から、すぐに死に至ることもある・子供には特に害が及びやすい・未来において超長期間被害が継続する、など、多岐にわたり説明がなされていたために評価に値すると判断した。

③電力供給について

この点に関しては、実害の確認はできるのだが、その度合いが判別できない。主な Logic としての「電力供給の低下→工場などの稼働率の低下→解雇」が、Government が提示していた「他の電力供給方法の変移」にたいして無視をする形で進んでおり、加えて Government の反論である、節電・ソーラー等の代替発電にも反応していないため、理解はできるものの、評価は Government に比べると落ちる。

※他のポイントについて

MGの point については、事故から発生する新たな問題を提示したという評価で終わり、MOに関してはアイデアは面白いが深まっておらず、具体性もなかった。ということで他のポイントについては勝敗には加味していない。

PM	76
MG	75
LO	76
MO	75
LOR	37.5
PMR	38

※今大会ではコンストを75点、リプライを37.5点平均とさせていただきます。